

ツキノワグマによる被害を受けないために

丹沢山地はクマ（ツキノワグマ）の生息地ですから、どこでもクマと出遭う可能性があります。また、餌を求めて活動しているうちに、人里に出没することもあります。

クマは元来臆病な性格なので、積極的に人を襲うことはありません。ただし、出会い頭など、身の危険を感じた場合には人を攻撃してくることもあります。

クマによる人身被害を防ぐには、「クマと遭わない」「クマを引き寄せない」ことが第一ですが、それでも出遭ってしまったら、「興奮しない、させない」ことが基本です。

《クマに出あわない工夫をしましょう》

山に入るときにはクマの出没状況を収集し、危険な場所には近づかない。

クマが活発に行動する朝夕や霧が出ているときの行動はさける。

できるだけ1人での行動はさけ、2人以上で行動する。

鈴、笛、ラジオなど音のするものを身につけ人の存在を知らせる。

子グマを見つけたらそっと立ち去る（近くに母グマがいる可能性があり危険）。

《もしクマに出あってしまった場合には》

あわてて急に立ち上がったたり、大声をあげて騒いだり、物を投げつけたりして、クマを刺激しない。背中を見せて走って逃げない（逃げると本能的に追いかけてきます）。

クマに向き合ったまま動きを見ながらゆっくり後退する。

《クマを引き寄せないために》

人や里山にクマを引き寄せないためにも、野山に生ゴミを捨てたり野生動物に餌を与えてはいけません。残飯などの味を覚えたクマは、やがて人里周辺にまで接近し被害を与えたりします。

山麓の人里では、生ごみのほか、廃棄果樹や野菜なども適切な処理が必要です。

耕作放棄地などがヤブ化しているところは、クマなどの野生動物にとって格好の隠れ場所になるので、刈り払いを行うなどの管理を実施することも人里に引き寄せないためには効果的です。

しかし、万全な対策はありません。クマによって性格が違ってもいわれています。山はクマの生活場所であることを忘れずに、十分注意して行動しましょう。

目撃情報は市役所、町村役場、地域県政総合センター、警察署へ

クマを目撃した場合や痕跡を見つけた場合は、直ちに市役所・町村役場または地域県政総合センター、最寄りの警察署に連絡してください。